

思い出の三話

(卒業生の記事中心)

——都立大崎高等学校誕生に至る頃まで——

旧職員 矢野志津

平成七年の今日から数えて五十年以前のこととなつた。昭和の二十年(一九四五年)八月十五日正午、突如あの方々が日本国民であるわたし達が日本の國民であるわたしたちを以て終結せざるを得ない事になった。これからは平和国家建設に励むのが國民の務めになる。そのままをすぐさま信じられないし宙に浮いた気持の持つて行き場はないが日本の國民であるわたし達

は広島・長崎に原爆が落とされ、戦いを繰り返さない状態の前に立たれていた。空襲の惨害にも耐え、最後の勝利限りない玉音放送によつて、かしもの大戦が我が日本の降伏を以て終結せざるを得ない事になつた。これからは平和国家建設に励むのが國民の務めになる。そのままをすぐさま信じられないし宙に浮いた気持の持つて行き場はないが日本の國民であるわたし達

いた学生たちは悪い予感は抱いていたし、知らされてもいたので、敗戦による底知れぬ危惧と不安に包まれた。それでも俄かに上陸して、婦女・子供・老人等は順応できなかつた。敵兵が

世の中は秩序を失い混乱してしまつた。辺りは見渡す限りの焼野原であった。

東京都立品川高等実践女学校は西五反田七丁目十一十の地に於て既に、その二十年五月

に戦災を受けて全焼してしまつて、茫然と佇む暇もなく

了説書授与式ヲ挙行シテ頂キトナリ新シキ日本建設ノ爲ニ

全国民皆毎日努力ノ口ヲ過シテ居リマス其ノ一時モ猶余ナラヌ時本日私共ノ爲ニ修

了説書授与式ヲ挙行シテ頂キ

マシテ身ニ餘ル光榮ト存ジマ

只今ハ校長先生ノ御懇篤ナ

ル御諭シヲ辱ウシ愈々私共ノ

責任ノ重大ナルヲ痛感致シマ

ス顧ミマスレバ私共ハ此ノ三

月本科ヲ卒業後國家ノ要請ニ

依リ直チニ専攻科ニ進ミ動員

学徒トシテ微力ナガラ各ノ全

力ヲ尽シテ参りマシタシカシ

八月十五日畏クモ御黙断ヲ仰

ギコニ新シイ私共ノ道ガ開

ケテ参りマシタ大詔ヲ奉戴シ

戰ヒ我ニ有利ナラズモ終戰

トナリ新シキ日本建設ノ爲ニ

全國民皆毎日努力ノ口ヲ過シテ居リマス其ノ一時モ猶

余ナラヌ時本日私共ノ爲ニ修

了説書授与式ヲ挙行シテ頂キ

マシテ身ニ餘ル光榮ト存ジマ

只今ハ校長先生ノ御懇篤ナ

ル御諭シヲ辱ウシ愈々私共ノ

責任ノ重大ナルヲ痛感致シマ

ス顧ミマスレバ私共ハ此ノ三

月本科ヲ卒業後國家ノ要請ニ

依リ直チニ専攻科ニ進ミ動員

学徒トシテ微力ナガラ各ノ全

力ヲ尽シテ参りマシタシカシ

八月十五日畏クモ御黙断ヲ仰

ギコニ新シイ私共ノ道ガ開

ケテ参りマシタ大詔ヲ奉戴シ

戰ヒ我ニ有利ナラズモ終戰

トナリ新シキ日本建設ノ爲ニ

全國民皆毎日努力ノ口ヲ過シテ居リマス其ノ一時モ猶

余ナラヌ時本日私共ノ爲ニ修

了説書授与式ヲ挙行シテ頂キ

マシテ身ニ餘ル光榮ト存ジマ

只今ハ校長先生ノ御懇篤ナ

ル御諭シヲ辱ウシ愈々私共ノ

責任ノ重大ナルヲ痛感致シマ

ス顧ミマスレバ私共ハ此ノ三

月本科ヲ卒業後國家ノ要請ニ

依リ直チニ専攻科ニ進ミ動員

学徒トシテ微力ナガラ各ノ全

力ヲ尽シテ参りマシタシカシ

八月十五日畏クモ御黙断ヲ仰

ギコニ新シイ私共ノ道ガ開

ケテ参りマシタ大詔ヲ奉戴シ

戰ヒ我ニ有利ナラズモ終戰

トナリ新シキ日本建設ノ爲ニ

全國民皆毎日努力ノ口ヲ過シテ居リマス其ノ一時モ猶

余ナラヌ時本日私共ノ爲ニ修

了説書授与式ヲ挙行シテ頂キ

マシテ身ニ餘ル光榮ト存ジマ

只今ハ校長先生ノ御懇篤ナ

ル御諭シヲ辱ウシ愈々私共ノ

責任ノ重大ナルヲ痛感致シマ

ス顧ミマスレバ私共ハ此ノ三

月本科ヲ卒業後國家ノ要請ニ

依リ直チニ専攻科ニ進ミ動員

学徒トシテ微力ナガラ各ノ全

力ヲ尽シテ参りマシタシカシ

八月十五日畏クモ御黙断ヲ仰

ギコニ新シイ私共ノ道ガ開

ケテ参りマシタ大詔ヲ奉戴シ

戰ヒ我ニ有利ナラズモ終戰

トナリ新シキ日本建設ノ爲ニ

全國民皆毎日努力ノ口ヲ過シテ居リマス其ノ一時モ猶

余ナラヌ時本日私共ノ爲ニ修

了説書授与式ヲ挙行シテ頂キ

マシテ身ニ餘ル光榮ト存ジマ

只今ハ校長先生ノ御懇篤ナ

ル御諭シヲ辱ウシ愈々私共ノ

責任ノ重大ナルヲ痛感致シマ

ス顧ミマスレバ私共ハ此ノ三

月本科ヲ卒業後國家ノ要請ニ

依リ直チニ専攻科ニ進ミ動員

学徒トシテ微力ナガラ各ノ全

力ヲ尽シテ参りマシタシカシ

八月十五日畏クモ御黙断ヲ仰

ギコニ新シイ私共ノ道ガ開

ケテ参りマシタ大詔ヲ奉戴シ

戰ヒ我ニ有利ナラズモ終戰

トナリ新シキ日本建設ノ爲ニ

全國民皆毎日努力ノ口ヲ過シテ居リマス其ノ一時モ猶

余ナラヌ時本日私共ノ爲ニ修

了説書授与式ヲ挙行シテ頂キ

マシテ身ニ餘ル光榮ト存ジマ

只今ハ校長先生ノ御懇篤ナ

ル御諭シヲ辱ウシ愈々私共ノ

責任ノ重大ナルヲ痛感致シマ

ス顧ミマスレバ私共ハ此ノ三

月本科ヲ卒業後國家ノ要請ニ

依リ直チニ専攻科ニ進ミ動員

学徒トシテ微力ナガラ各ノ全

力ヲ尽シテ参りマシタシカシ

八月十五日畏クモ御黙断ヲ仰

ギコニ新シイ私共ノ道ガ開

ケテ参りマシタ大詔ヲ奉戴シ

戰ヒ我ニ有利ナラズモ終戰

トナリ新シキ日本建設ノ爲ニ

全國民皆毎日努力ノ口ヲ過シテ居リマス其ノ一時モ猶

余ナラヌ時本日私共ノ爲ニ修

了説書授与式ヲ挙行シテ頂キ

マシテ身ニ餘ル光榮ト存ジマ

只今ハ校長先生ノ御懇篤ナ

ル御諭シヲ辱ウシ愈々私共ノ

責任ノ重大ナルヲ痛感致シマ

ス顧ミマスレバ私共ハ此ノ三

月本科ヲ卒業後國家ノ要請ニ

依リ直チニ専攻科ニ進ミ動員

学徒トシテ微力ナガラ各ノ全

力ヲ尽シテ参りマシタシカシ

八月十五日畏クモ御黙断ヲ仰

ギコニ新シイ私共ノ道ガ開

ケテ参りマシタ大詔ヲ奉戴シ

戰ヒ我ニ有利ナラズモ終戰

トナリ新シキ日本建設ノ爲ニ

全國民皆毎日努力ノ口ヲ過シテ居リマス其ノ一時モ猶

余ナラヌ時本日私共ノ爲ニ修

了説書授与式ヲ挙行シテ頂キ

マシテ身ニ餘ル光榮ト存ジマ

只今ハ校長先生ノ御懇篤ナ

ル御諭シヲ辱ウシ愈々私共ノ

責任ノ重大ナルヲ痛感致シマ

ス顧ミマスレバ私共ハ此ノ三

月本科ヲ卒業後國家ノ要請ニ

依リ直チニ専攻科ニ進ミ動員

学徒トシテ微力ナガラ各ノ全

力ヲ尽シテ参りマシタシカシ

八月十五日畏クモ御黙断ヲ仰

ギコニ新シイ私共ノ道ガ開

ケテ参りマシタ大詔ヲ奉戴シ

戰ヒ我ニ有利ナラズモ終戰

トナリ新シキ日本建設ノ爲ニ

全國民皆毎日努力ノ口ヲ過シテ居リマス其ノ一時モ猶

余ナラヌ時本日私共ノ爲ニ修

了説書授与式ヲ挙行シテ頂キ

マシテ身ニ餘ル光榮ト存ジマ

只今ハ校長先生ノ御懇篤ナ

ル御諭シヲ辱ウシ愈々私共ノ

責任ノ重大ナルヲ痛

会員だより

学校のこと

能登

孝子（昭和24年度卒）

毎年の会報、楽しみにしております。幹事の皆様のお骨折りに感謝しております。学校での思い出は、とても話しきれぬ程たくさんあります。何故なら、私達は六年も学校に居たのですから……留年したわけではありませんよ。

戦後、六・三・三・四制の学制がされ、中学を自動的に卒業し、旧制の女学校も五年間で、昭和二十五年に新制高校を卒業したからです。高校になって、初めての其学も忘れられません。新鮮な学校生活を感じました。今、学校に、わざか三年しかない学校生活では気の毒な様な気がします。受験に追いかかれながらではのんびり、ゆっくりと学校生活も楽しむわけには

高校になって、初めての其学も忘れられません。新鮮な学校生活を感じました。今、学校に、わざか三年しかない学校生活では気の毒な様な気がします。受験に追いかかれながらではのんびり、ゆっくりと学校生活も楽しむわけには

感 謝

後藤

真由美（菅野）

（昭和61年度卒）